



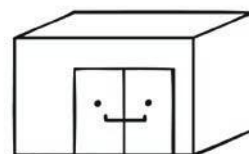
特集：22年目の資料寄贈事情 シリョーキゾージョー

「資料の寄贈って、今もあるんですか？」

と、視察に来られた方やマスコミの方からよく尋ねられます。

答えは「もちろん、今もあります」

それでは、寄贈資料にはどんなものがあり、どうして今も増えているのでしょうか？ 収蔵庫部長に聞いてみましょう。



収蔵庫の
イメージキャラクター
収蔵庫部長です！

○センターにある資料はどんなもの？

センターで収集・保存をしている資料は、一次資料（阪神・淡路大震災の被害を物語るもの、復興過程で使用・作成されたもの：当時つかわれた現物）と二次資料（阪神・淡路大震災およびその他の災害・防災関連の刊行物：図書等）に分かれています。
＊詳しくは資料室ニュース Vol.63 をご覧ください。

○どうやって集めてきたの？

現在保存している資料の多くは、センター開館前に集められたものです。震災直後の平成7年(1995年)10月から資料収集自体は始まっていました。当初は資料募集のチラシを配るのみでしたが、センター開館直前の2000年から2年ほどの期間は緊急地域雇用特別交付金を活用し、兵庫県が資料を持っている団体(行政、学校、ボランティア等)・個人に対して調査員を派遣し、大規模な収集事業を行いました。のべ約450人の調査員が活動し、約16万点の資料が集まりました。センターが開館した平成14年(2002年)4月以降、それらを一次資料として保存・公開しています。現在も資料室ニュースやパンフレット、ウェブサイトで、引き続き資料の寄贈を呼びかけています。

○どうやって寄贈するの？

寄贈の方法は郵送の他、資料室にお持ちいただくか、専門員が収集に伺う場合もあります。ただし、資料の規定に該当しないものや公開・収蔵の制約上、受入れできない場合もあるため、寄贈の前に電話やメール、郵便等でご相談いただくことが必要です。寄贈者から資料に関するお話を聞き取ることを「調査」と呼んでいます。一次資料は寄贈受入れのみですが、二次資料の図書等は購入も行っています。



▲震災資料収集に使用したチラシ



▲資料整理の様子(2003年10月)

○今年度は寄贈が多いって本当？

本当です。センターが開館してから毎年、1年間ごとの「調査」の回数を数えています。平成23年(2011年)度以降は年間の調査回数は10回未満でしたが、今年度は10月末の段階で既に10回行っています。理由を特定することはできませんが、センターの認知度向上や、地震から年月が経ったことで自分の手から放す気になった人が増えたことが考えられます。

しかしセンター開館時期に比べると、年数が経つにつれ、調査回数は漸減傾向にあると言えます。収集してきた資料を保存し、活用いただくために工夫をしていくことが、今これからの資料室の仕事となっています。

次の頁で
今年度の寄贈資料を
見てみましょう！



今年度の新規寄贈資料 寄贈資料の一部をご紹介します。

センターの上級研究員でもある小林郁雄さんは、震災当時からまちづくりのプランナーとして活躍されています。引退を見据える時期が来たと感じられ、今年度いっぱいを使って資料の整理をなさっています。

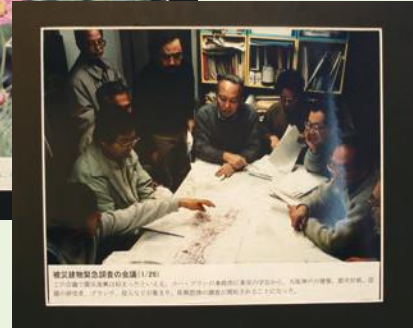
第一弾として、9月20日に写真パネルが51枚到着しました。パネルは被災地の現状を知ってもらうために、被災地外の建築家の団体に貸出して使用されたそうです。小林さんの事務所周辺や、三宮・旧居留地の被害の様子、参加した会議や調査の様子などが写っています。

今後は、震災10周年・15周年の際の検討委員会の資料や、被災地の復興まちづくりに関する資料が届く予定です。

調査先番号：287 調査先名称：小林郁雄



▲寄贈資料のパネル▶



東京にお住まいの粕川さんから、震災当時の写真をご寄贈いただきました。当時建築系の学生だった粕川さんは、休日を利用して被災地を訪れ、建築物の被害状況の写真を撮影されました。ご自宅の整理中にその写真を発見し、今回のご寄贈に至りました。

撮影時のことはしっかりと覚えておられないそうです。15枚ある写真のうち1枚は、写っている建物の名前から芦屋市のものだとわかったので、他にもそのあたりではないか、とのことでした。

その後写真の登録をする際、風景の中に「神戸の壁」が写っているのを担当者が発見しました。神戸の壁は長田区にあった公設市場の耐火壁で、戦災にも震災にも耐えて建っていました。現在、本体は淡路島の北淡震災記念公園にあります。

また、別の写真には、新長田駅前の状況が写っていました。写真の登録を手伝ってもらっていたインターンシップ生が、「写っている建物が新長田駅前のものに似ている」と気づいたので。調べてみると、別の角度から見た同じ場所の写真が見つかり、確かに新長田駅前であることが分かりました。どうやら粕川さんは、芦屋から長田まで移動されていたようです。

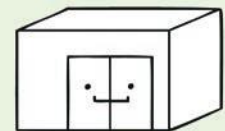
調査先番号：507 調査先名称：粕川朝子



▲寄贈資料の写真の一枚

中央部分に焼けた「神戸の壁」が写る
資料番号：504-001001.000010

センター所蔵の写真資料には撮影場所が特定できないものも多く、場所がはっきりしている今回の写真は貴重です。



インターンシップ

8月から9月にかけて、4人の学生さんのインターンシップを受け入れました。8月14～25日は神戸国際大学、9月5～16日は神戸学院大学の学生さんが活動されました。防災ゲームの実施、蔵書点検、古本の整理などの資料室の業務を手伝っていただきました。感想の一部をご紹介します。



「資料の管理と聞き、書籍をまとめたりする仕事なのだろうとばかり思っていたのですが、資料の保存のために使用している除湿機の水を捨てる作業をしたり、返却された資料を様々な場所に返しに行ったりと自分が想像していた以上に身体を使う作業がありました。」

資料室にある蔵書とバックヤードにある本の点検も行いました。集中力が必要な作業だったので、作業が終わった後はとてもやりがいと達成感を感じることができました。」

「1つ1つの細かな作業を丁寧に行うことで資料は綺麗な形のまま残されていると思うと、とてもやりがいを感じることもできる仕事だと4日間を通して思いました。」

こちらに来るのは、中学校の時に1度訪れて以来でした。こうして改めて見てみると防災や震災に関する資料の量の多さにはとても驚きました。そして、その多くが寄贈していただいたものというお話を聞いて、改めて資料室という場所が大切な場所ということが分かりました。」

地味な作業だと思いますが、やりがいを感じて下さったようで、なによりでした。おかげさまで作業が進み、こちらも大変助かりました。インターンの皆さん、ありがとうございました！

Web展示「震災資料語り」がオープンしました

～ものがたり～



11月10日より、ひとぼうHPに新たなコンテンツが加わりました!

「震災資料語り」と書いて、「ものがたり」と読みます。ここでは、多くの所蔵資料の中からピックアップした一次資料を紹介しています。資料の写真とエピソード、そして資料から見える当時の状況などの関連情報が見られるようになっています。1点ずつ読んでいただけるようになっていますので、是非クリックしてみてください。

展示資料の中には、いかにも震災を思い起こさせるモノのほか、ただの日用品に見えるビール瓶や鍋、ポリ容器などでも震災資料として寄贈され、保管されている経緯があります。背景にある寄贈して下さった方の想いや、被災時の状況などを知っていただくと、資料の見方が変わるのではないのでしょうか。

資料の実物をご覧になりたい方は、ご連絡いただいた上、資料室までお越しください。阪急電車の扉や自転車などの大きな資料は7Fの収蔵庫に保管していますので、希望される場合は収蔵庫までご案内いたします。

また、当センターの一次資料には、1点ごとに調査先番号(寄贈者を示す)と資料番号がつけられています。例えば、「高速道路から今にも落ちそうなバス」の写真の場合は、1300322が調査先番号、000175が資料番号です。資料室HPの検索システムで調査先番号を検索して頂くと、その資料とともに寄贈された他の資料の情報が出てくる場合もあります。この機会に、当センターの所蔵資料の多様さや、寄贈者の方の想いを感じていただければ幸いです。

ページの下部にはコメント欄を設けています。ご覧いただいた感想や、当時を思い出してのエピソードなど、ぜひお寄せください。タイトルの「震災資料語り～ものがたり～」には、資料が震災を「語り」、資料を通して皆さんが「語り」あう場になればと願いを込めました。今後も資料をご紹介します予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

URL: http://www.dri.ne.jp/exhibition_materials



▲「震災資料語り～ものがたり～」のページ



▲人と防災未来センタートップページ

震災資料のメッセージ「想いのかたち」第2期

「震災資料のメッセージ」は、人と防災未来センターに寄贈された一次資料を、年度ごとのテーマに沿って紹介するスポット展示です。

本年度は、「想いのかたち」をテーマとしました。震災後、のこされた人々は、さまざまなモノに、亡くなった人々への想いや祈りを託しました。そのあり方を震災資料から振り返ります。今回は、展示を前期と後期に分け、それぞれ1点ずつ一次資料を展示しています。第2期は「亡妻が大切にしていたが震災でこわれた観音像」を展示します。

寄贈者の方は、「震災当日の朝、タンスは倒れずにすみました。多くのものが割れました。その1つが震災前に亡くなった妻が、神戸そごうの展示会で購入した観音像です。食器棚の上に飾っていましたが、落下して無残にも手足が飛びちってしまいました」と語られています。奥さまが大変気に入っていたので、捨てることができず、保管されてきたものです。



▲今期展示する資料の観音像

展示期間

第1期: 2017年5月30日(火)～2017年11月26日(日)「工藤純さんのワープロ」(終了)

第2期: 2017年11月28日(火)～2018年5月27日(日)「亡妻が大切にしていたが震災でこわれた観音像」

展示場所: 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 西館3階(有料ゾーン)

Webアーカイブの公開

災害対応研究会から寄贈いただいた一次資料を「Web アーカイブ」として資料室 HP 上で公開しています。

研究会は、災害により創出された新たな環境への人々や社会の適応過程（災害過程）について体系的な理解を確立する目的で、1998 年度に発足しました。その後、2016 年度まで年に 4 回セミナーなどを開催し、教育関係者に加え、行政、医療、防災関係企業、NPO、マスコミなど多岐の分野にわたる人々が参加し活発な議論を重ねてこられました。

今回ご寄贈頂いた Web アーカイブからは、その貴重な成果を年度ごとにご覧いただくことができます。

URL : http://www.dri.ne.jp/web_archive/saigaitaiken/



1.17 はじまりのごはん



2017年度 資料室企画展

1.17 はじまりのごはん

「地震のあと、はじめて食べたものは何ですか？」

センターのボランティアの皆さんに聞いてみました。当時を振り返ったエピソードと写真パネルを展示、関連資料も一緒にご紹介します。

期間：2017年12月19日（火）～2018年3月11日（日）（予定）
場所：人と防災未来センター西館5F 資料室内（無料エリア）

協力：3.11 オモイデアーカイブ
3がつ11にちをわすれないためにセンター（せんだいメディアテーク）

8Kスーパーハイビジョン映像展示 「資料が語る 阪神・淡路大震災」

期間：2017年12月19日（火）～2018年1月17日（水）
場所：人と防災未来センター西館1Fロビー（無料エリア）

NHK 神戸放送局がセンター所蔵の一次資料と、寄贈者の方のインタビューを映像作品に仕上げてくださいました。ハイビジョン放送の16倍の画質をもつ8Kの映像を専用モニターを使って展示します。迫力の映像を体感できる貴重な機会、ぜひご覧ください。



ひとぼう資料室Facebookページ*お知らせや日々のできごとを随時更新中！

*Facebookページは、FBアカウントがなくても閲覧できます。 <https://www.facebook.com/dri.archives/>



震災資料を お持ちの方に

人と防災未来センターでは、現在も震災資料の収集を続けています。震災後、すぐには手放せなかったものの、震災の出来事を伝えるために活用したいとお考えの方は、ぜひ一度資料室までご相談ください。

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念
DRI 人と防災未来センター 資料室

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2

人と防災未来センター西館 5 階

TEL 078-262-5058 FAX 078-262-5062

HPアドレス URL <http://www.dri.ne.jp>

開室時間 9:30 ~ 17:30 (展示施設とは時間が異なりますのでご注意ください)

閉室日 毎週月曜日(月曜日が祝日又は振替休日の場合は翌平日)
12月29日から1月3日

資料室は無料で
ご利用いただけます

